

北海道町村議会議員研修会

多様な人材が参画する

地方議会へ

令和7年度北海道町村議会議員研修会が7月8日札幌コンベンションセンターにて開催されました。

初めに「地方議会における議員の多彩化に向けてく地域社会の『鏡』としての議会を考える」と題して、西南学院大学法学部 教授 勢一智子氏が、多様な経験をした多様な世代が多様に参画する議会としての社会変革が必要であると話をされました。

次に人口戦略会議 副議長 増田寛也氏が「人口減少社会を生き抜くために」と題し、町村事務の見直し、関係人口の制度化、国への



▲増田 寛也 氏



▲勢一 智子 氏



要望を上げる、若者や女性に選ばれる自治体になるなどの話をされました。

総務大臣の経験をした増田氏は「千歳のラピダスはデジタルを作った取り組みに」「上士幌町のドローンで郵便物を運ぶ」「厚岸町の困りごと解決をミーツ・ライン・電話などを使って」との身近な北海道の事例を話されました。増田氏の話に皆さんが一言も逃すまいとの気持ちで聞き入りました。

有益な時間を頂き、ありがとうございました。

(遠藤ハル子)

比布町青果振興会役員・関係機関研修会

丹精込めて作られた

フルーツトマト栽培を視察

7月22日J Aびつぷ町青果振興会役員並びに関係機関との研修会に産業建設常任委員会で参加してきました。

フルーツトマトの生産について、町内の稲場さんの圃場で、経過や苦労、近年の気候変動による栽培過程等の状況を説明していただきました。

令和2年より栽培を開始しており、数ある品種を試験栽培してきて、令和5年より「レディーファースト」に品種を絞って面積50坪生産しています。

このトマトの特徴は大玉で、お



尻の部分が尖った形をしており、皮が薄く甘みと酸味のバランスが良いことが挙げられます。

近年は連日の猛暑、さらには水不足による果実の生育不良に悩まされています。改善するよう肥料を与える量を工夫したり、栽培の難しさに四苦八苦している様子をお聞きました。

農家さんの丹精込められて作られた農産物が各地に出荷され、多くの人に食べてもらえるよう厳しい猛暑の中頑張っていると思います。

(大熊 勝幸)



北海道町村議会広報研修会

町民目線に立った

議会活動が伝わる広報紙へ

北海道町村議会広報研修会が、令和7年8月19日に札幌市内のホテルで開催され、広報特別委員で参加して参りました。

講師の議会広報サポーター 芳野政明氏に「議会の見える化」と「住民との信頼築く」と題して講話をいただいた後、各町から提出のあった議会だよりについて、広報クリニックスを行い、より良い広報紙にするためのご意見をいただきました。

活発で活気ある議会運営を行うことが大切であり、広報紙は町民の皆さんにより議会について理解を広めていく最大の武器になると感じました。

地域における課題は、議会と住民のつながりが希薄になっていること、その要因の一つに議会広報紙が町民目線になっていなく、町民の皆さんから見て「議会議員は何をしているのだろうか？」と見えにくいのが問題だと思えます。

町民の皆さんと行政、議会が全ての情報を共有し、課題解決に取

議会だより123号から、紙面のリニューアルを行っています。より良い議会だよりに向け、ご意見等お待ちしております！



(佐藤 良彦)

北海道大学公共政策大学院サマースクール

地域の資源を

生かしたまちづくり

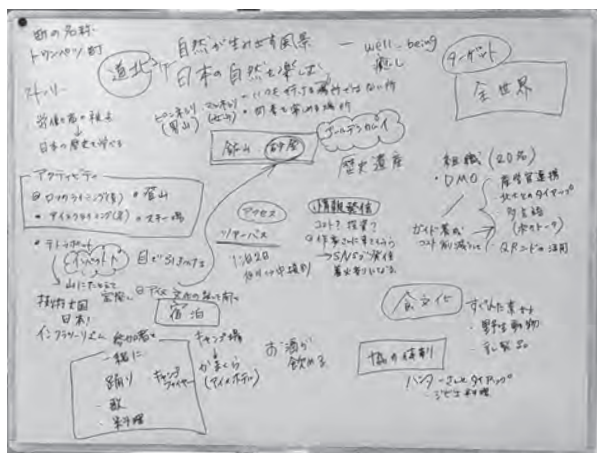
北大では公共政策の基礎となることを様々な視点から課題にし、議員・公務員そして議員候補者を集め、議論をしています。

今夏は、「北海道の豊かな自然と資源を生かした観光まちづくり」をテーマとして、一日目には成功事例の講演を聴き、二日目には各地から自地域の観光資源を持ち寄って、架空の町でツアーを創り出そうという試みをしました。

一日目の島根県の六次化事例で「田舎町の食材付加価値を上げる取り組み」が印象的でした。

私がグループリーダーを務めたチームでは、北海道の特徴でもある四季の変化を感じられる場所、日常ではない風景の中での遊び、そして日本のインフラに興味を持つ外国人を満足させるための見学ツアーを計画しました。(写真はグループ発表時のホワイトボード)

新しく箱物を作って客寄せするのではなく、今あるものを最大限生かそうとする取り組みは、財政がそれほど豊かなくても実践で



(植西 浩一)